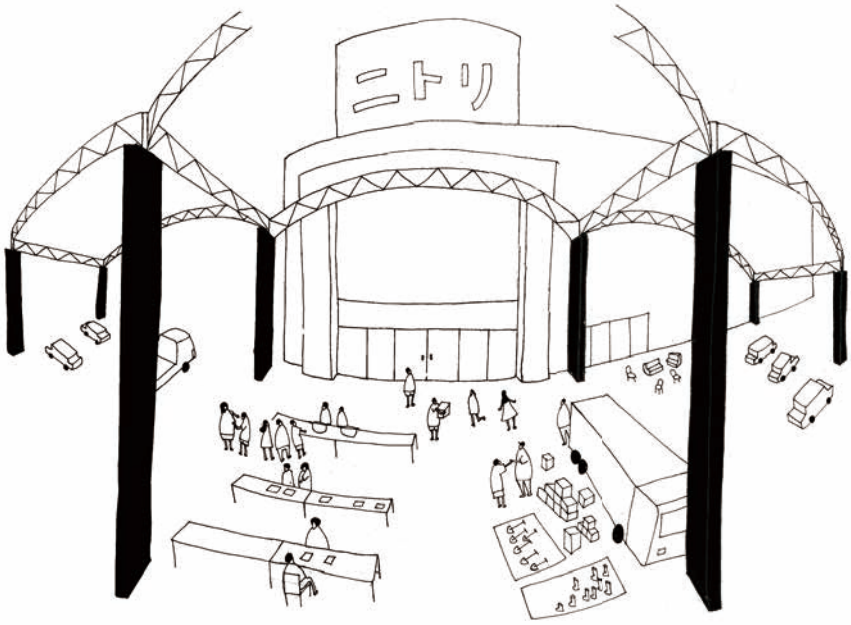
ロードサイド商業は近代化により広まり、日本の郊外の風景を壊してきたと言われている。しかし日本のあらゆる地域にある、**大きく目立つ建物**だからこそ、災害の多い日本の多くの地域を守ってくれるポテンシャルを持っている。

新しく災害のための建物を作るだけでなく、今あるそのロードサイド商業のポテンシャルを伸ばすこと、その**新しい合理性**と**価値の逆転**が多くの人々を救うかもしれない。

□5つの附置義務ルール

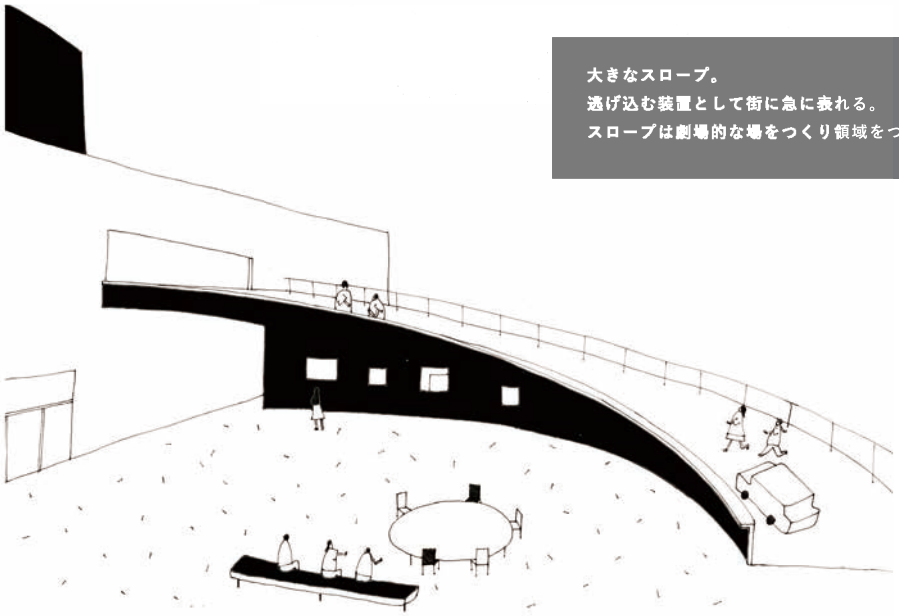
1 大屋根 big roof

大屋根。
大型店舗の駐車場に大屋根をかける。大屋根は多くの人や様々な活動を許容する懐の広さを持っている。
大型トラックでも入れるような高さを持ち、バイパスから物資を運ぶ車を迎えいれる災害拠点となる。



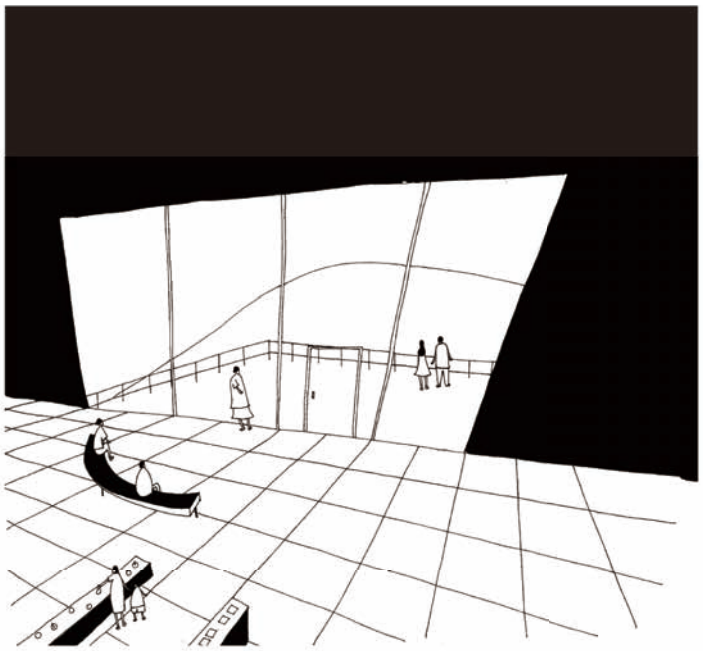
2 大きなスロープ big slope

大きなスロープ。
逃げ込む装置として街に急に表れる。
スロープは劇場的な場をつくり領域をつくっていく。

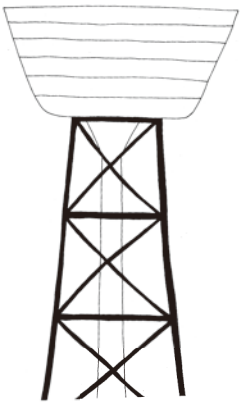


3 地域を見る窓 **window**

地域を見る窓。
物販を置く箱として作られたロードサイド型店舗に窓を開ける。
物の居場所から人の居場所へ。光や風を取り入れ、居住性を高めるための一歩。
窓を開けるだけで自分の位置が認識できる。雄大な山や川、流れる車をみることができる、高台の窓。



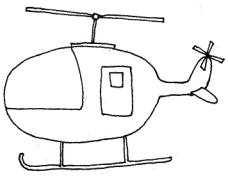
4 給水塔 **water tower**



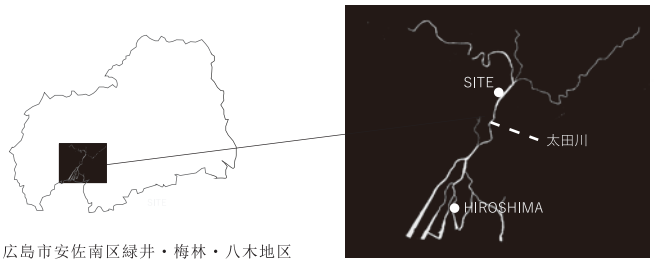
給水塔。
広告のための看板が立ち並ぶロードサイドに給水塔も加わる。
地域のなかでのアイコンとなって遠くからでも見える。
看板でもあり、水をためる役割も持ち、避難の目印ともなる。

5 屋上公園 **rooftop park**

屋上公園。
屋上にあって、大きくて、みんなに開かれている。屋上庭園ではなく、屋上公園。
川が氾濫し、もし島のように孤立しても、
ヘリコプターの助けを待つことができる可能性のある屋上駐車場を公園に変える。



□始まり



敷地：広島市安佐南区緑井・梅林・八木地区

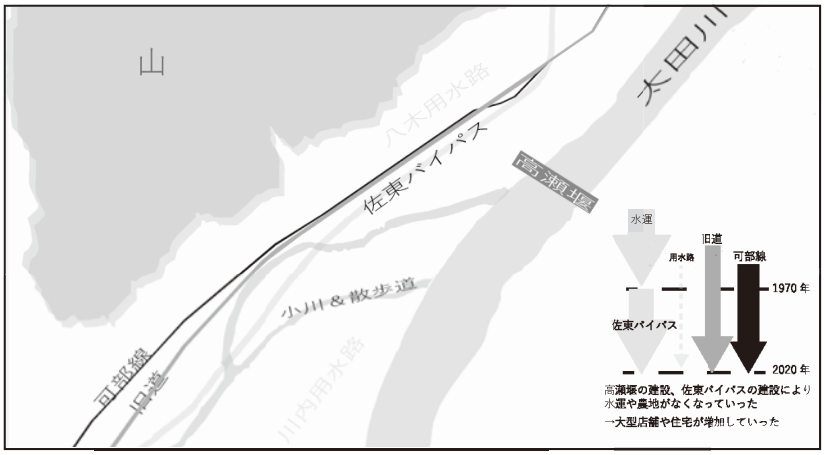
a. 動機

高校生の時に大雨が降って、近くの山のあちこちで土砂崩れが起こった。普段過ごしているとそこまで意識していなかったけど、山からの土砂や水が滝のように住宅街の道をすごい勢いで流れるのを見たとき、山や川と環境がすべて繋がっている中で暮らしていたんだということを初めて思った。

増える住宅地 /2014 年の災害

b. 歴史

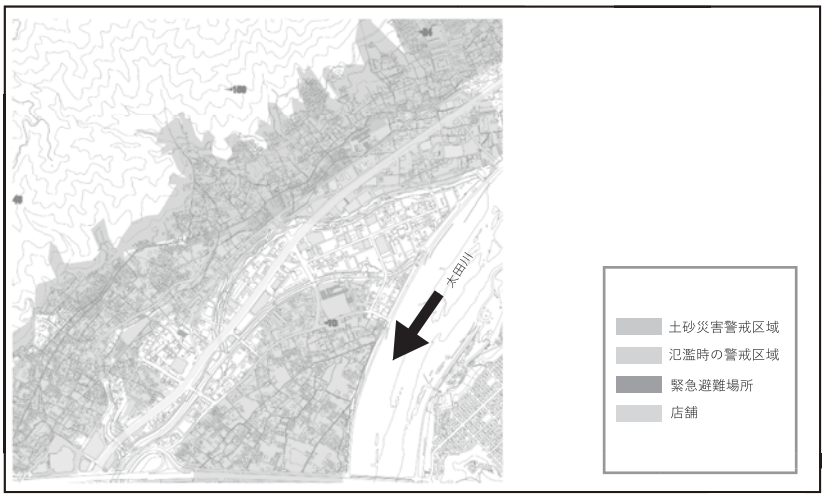
歴史を調べていくと、もともとその土地は川の氾濫も土砂崩れも起こる地域で、山から蛇が川に降りてくると言われるほどだった。
近代化の過程でその**歴史が伝**えられないまま、バイパスや**鉄道が整**備され、多くの住宅が山を蝕**むように**作られてしまったことがこの土砂災害の原因の一つだった。



1970 年頃 - 変化したインフラ・街

c. 分析

地図で災害時の分析をしてみると、現在避難所**になっている学校などに比べ**て、バイ**パス沿い大型店舗の方が安全**であり、**日常的に開かれ地域の人に使**われている**ことがわかった。太田川の**氾濫も土**砂災害も起こると仮定した**時、バイ**パス沿いにある大型店舗は逃**げ込むにも、外部か**らの支援を受ける**拠点としてもポテン**シャルを持ってい**ると考えた。



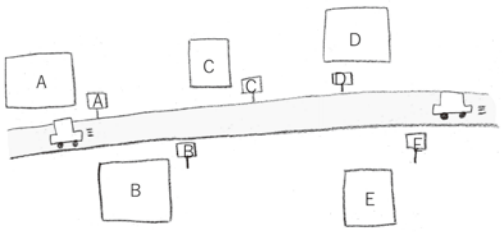
都市計**画の根本的な**問題

□問い　バイパスという大きな道のそばに建つ大型店舗は物資を運ぶ拠点になりやすい。
立体駐車場付きの店舗は開かれた高台ととらえることができる。

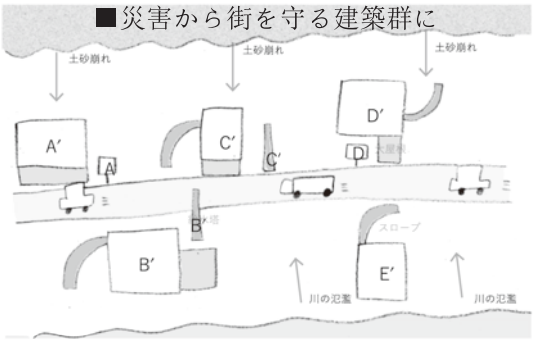
大型店舗を災害拠点に変えるためのルールをつくることによって、
嫌われ、どうしようもないと思われている
郊外の資本の風景が避難のため・その地域の人のための風景とならないか。

歴史が受け継がれずに作られた場所に、遠くの環境や歴史を感じさせる記念碑
のようなものを作れないか。

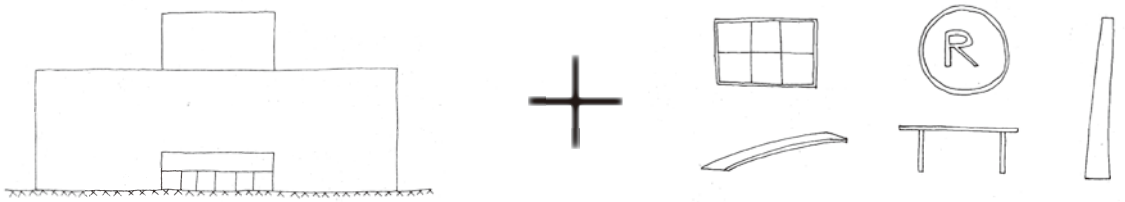
■街と無関係に作られていたロードサイド



■災害から街を守る建築群に

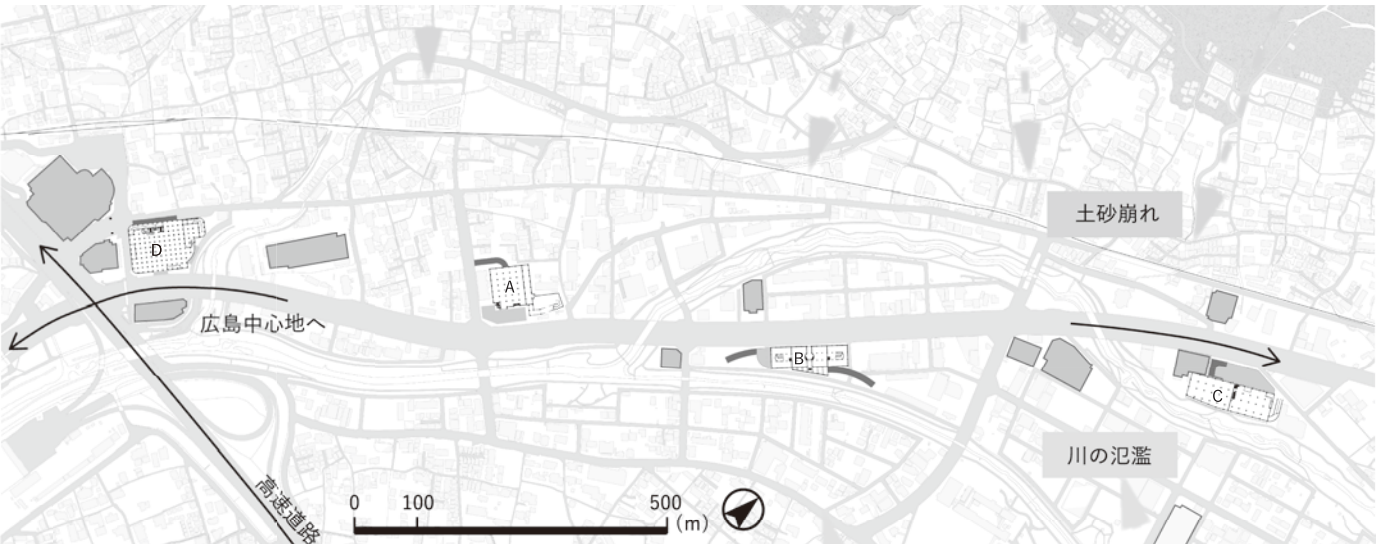


□提案　立体・屋上駐車場付きの大型店舗　　5つの附置義務



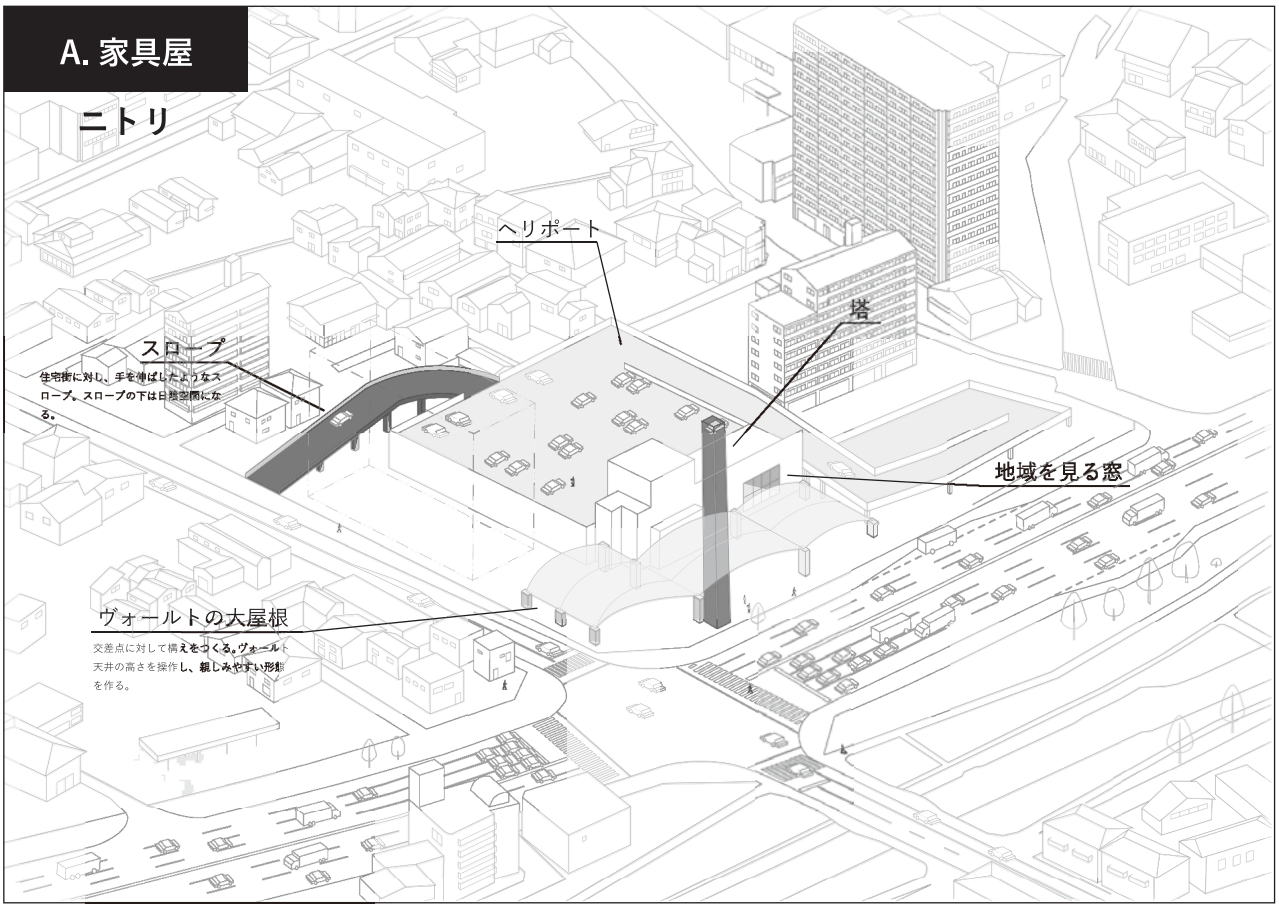
※前ページ参照

□全体計画



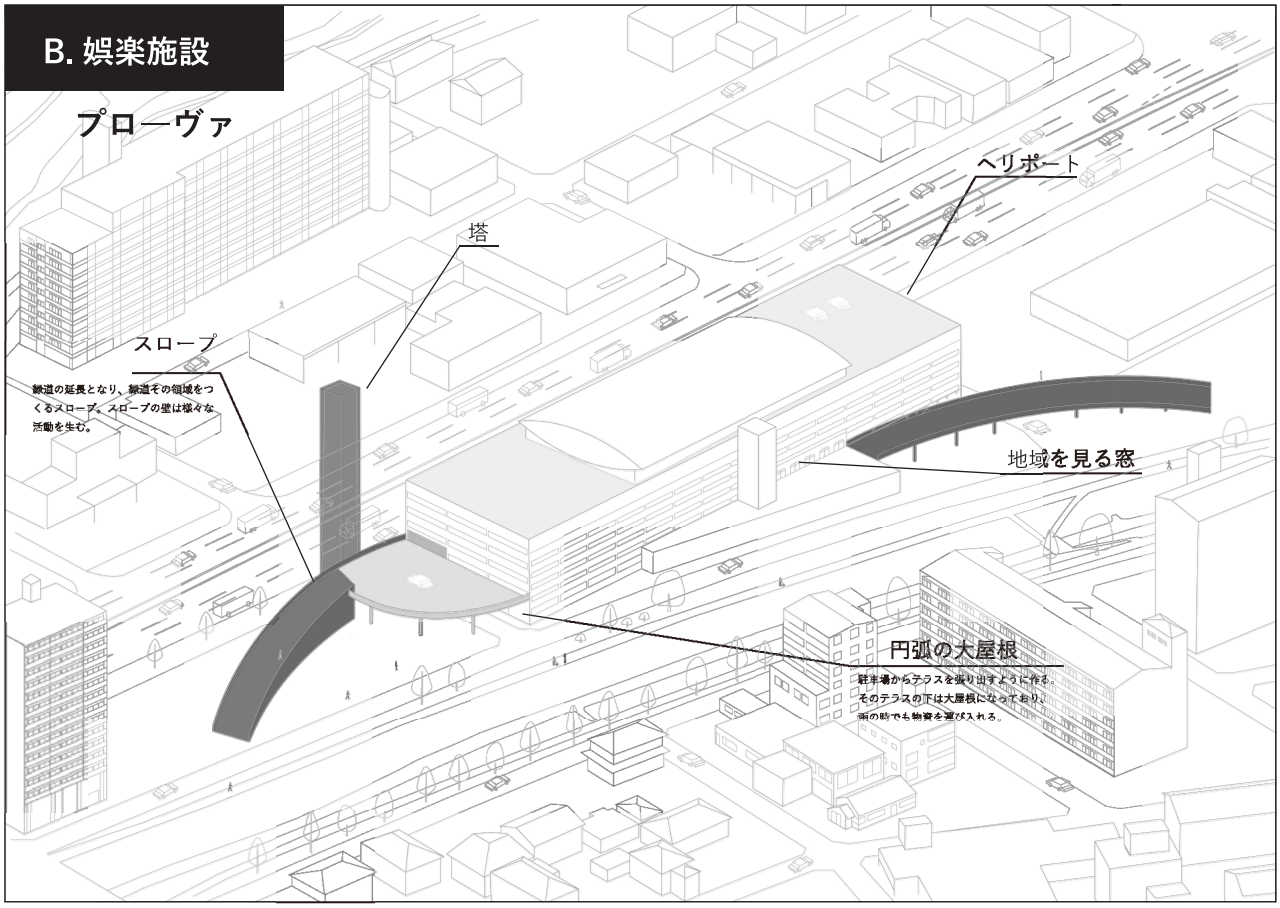
A. 家具屋

ニトリ



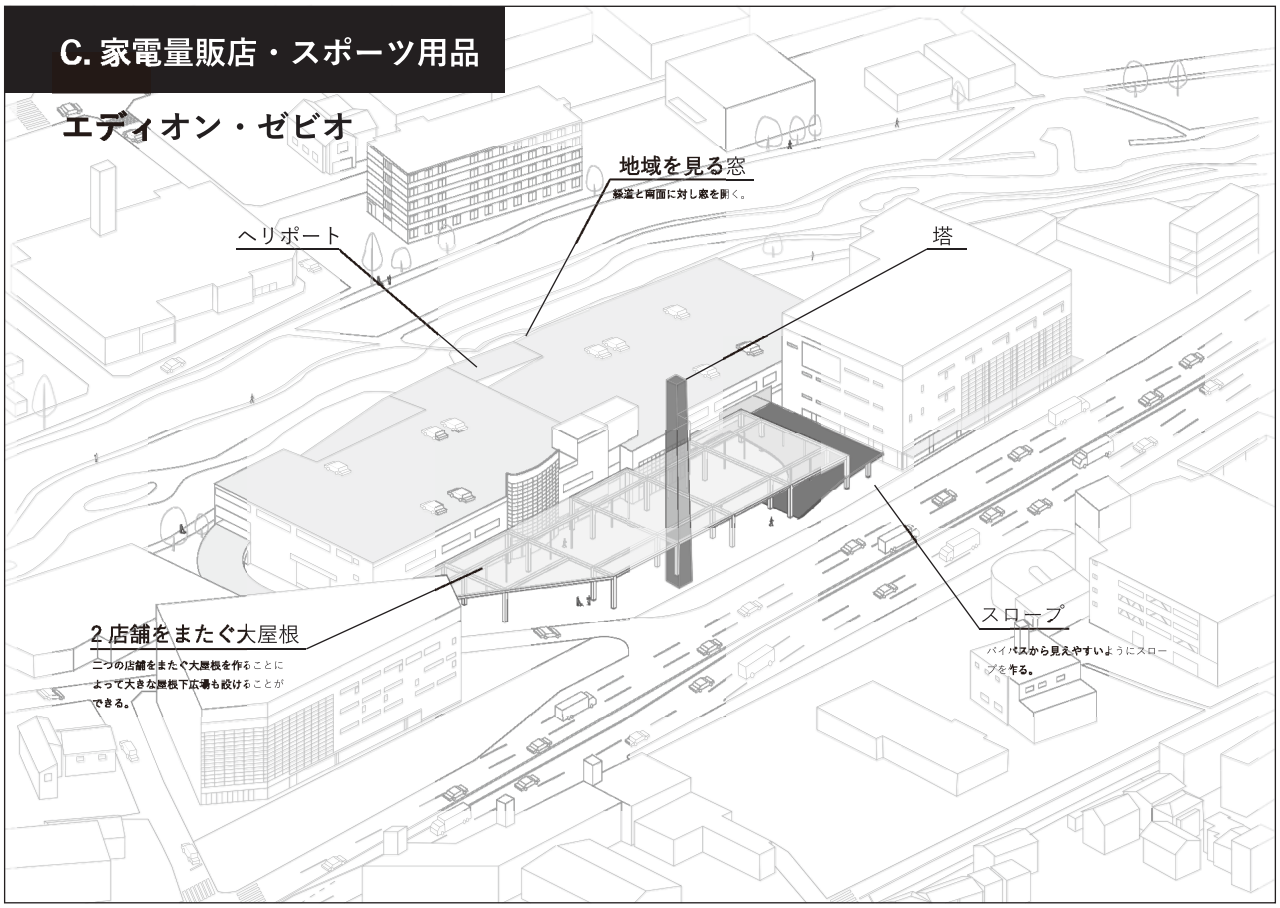
B. 娯楽施設

プローヴァ



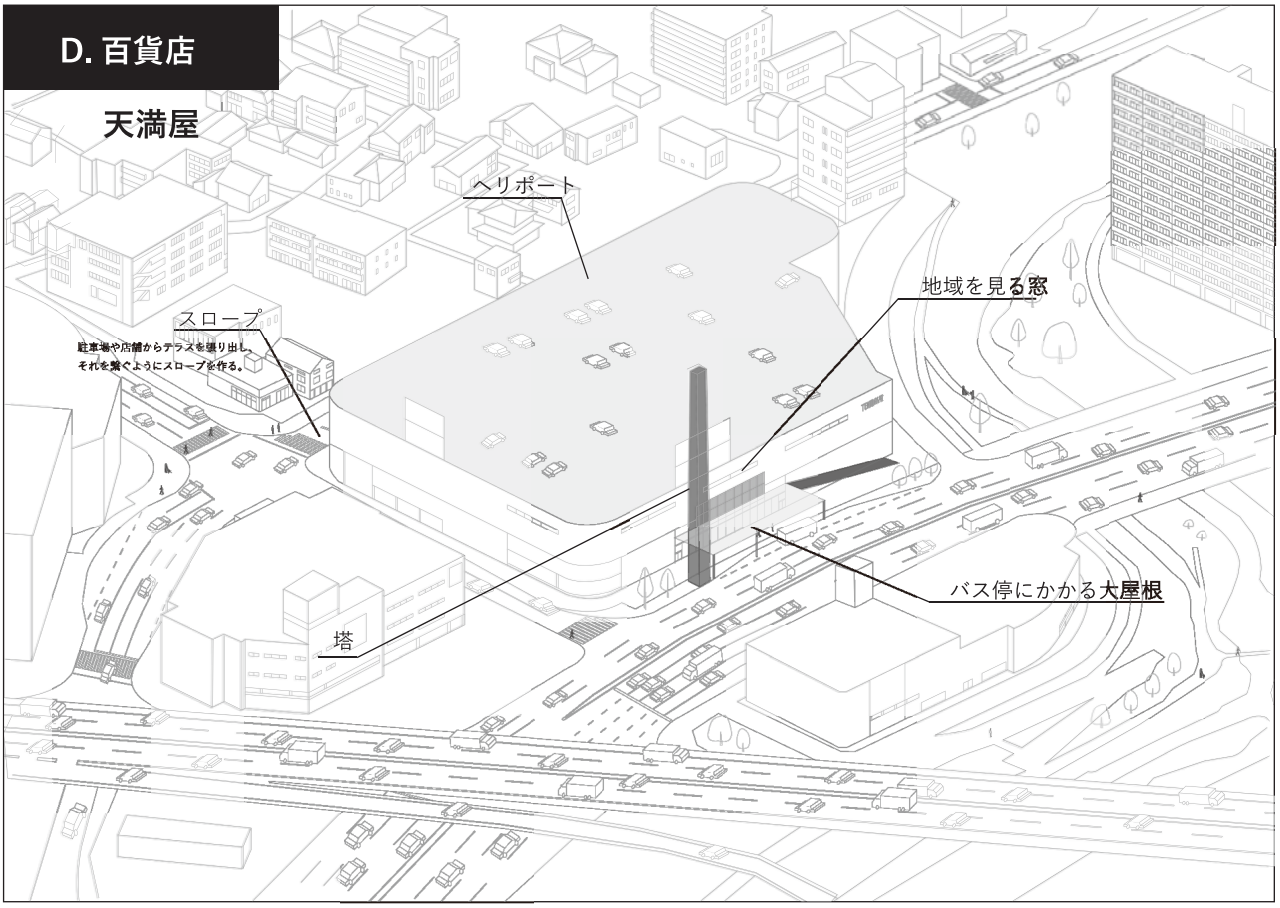
C. 家電量販店・スポーツ用品

エディオン・ゼビオ

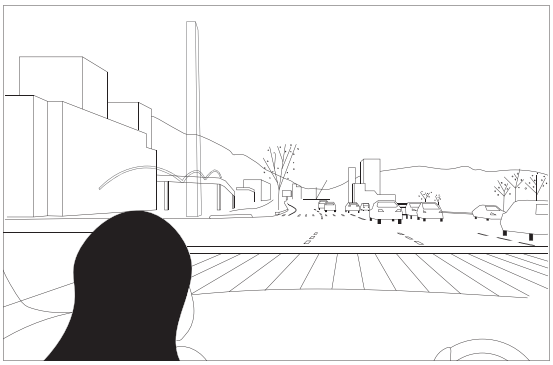


D. 百貨店

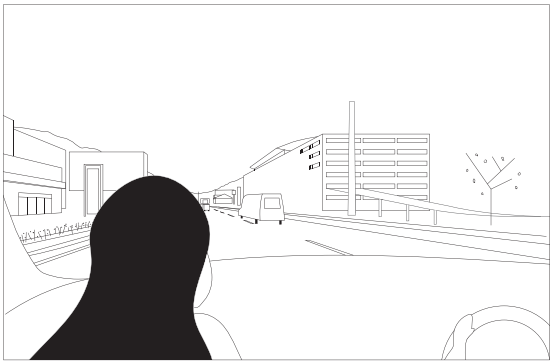
天満屋



□車から見る

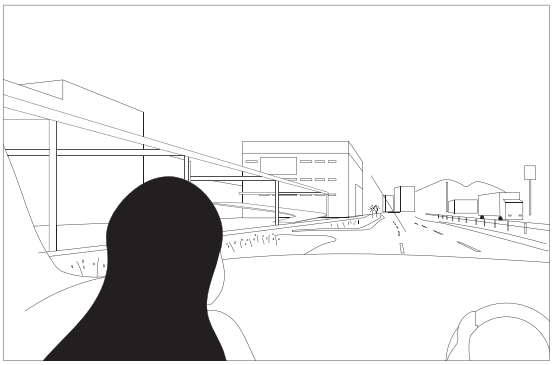


A. ニトリ

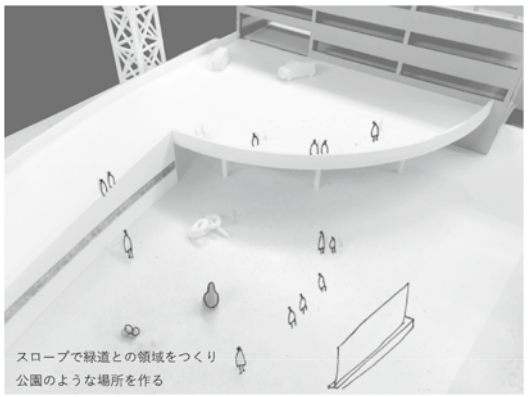


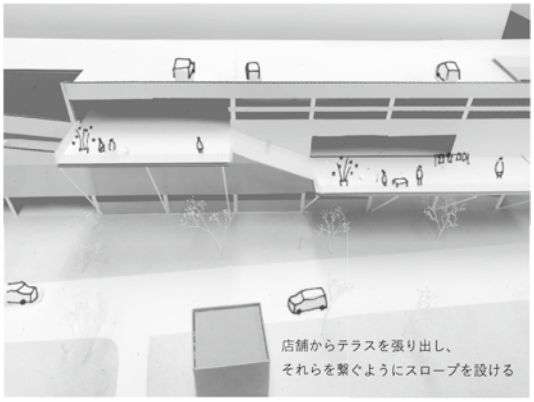
B. ブローヴァ

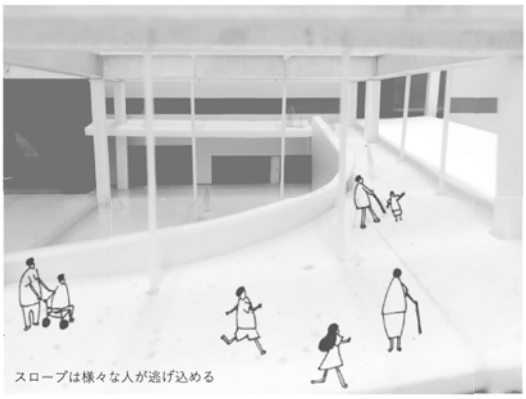
D. 天満屋



C. エディオン・ゼビオ







やろうとしていることのスケールの大きさに対して、自分の力不足を本当に感じた半年でした。
手伝ってくれたみんな、ずっとおもちゃみたいな大型店舗の既存をつくるとか塔をつくるとか、
変な作業ばかりだったけど、こんな私を手伝ってくれてありがとう。
もっと知的に、感覚的に、イマサンでなく、わくわくするものが作れるように頑張ります。